

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4171600218
法人名	医療法人社団 栄寿会
事業所名	グループホーム ほほえみ荘
所在地	佐賀県杵島郡大町町大字福母2591番地21 (電話) 0952-82-6344

評価機関名	佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成21年3月25日	評価確定日	平成21年6月10日

## 【情報提供票より】(平成21年1月28日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 2 月 4 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤	10 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 12 人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋平屋建て
------	--------

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	実費 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	150 円
	または1日当たり 950 円			

### (4) 利用者の概要(1月28日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1	5 名	要介護2	10 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88 歳	最低	83 歳	最高	93 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	友朋会嬉野温泉病院 白石保養院 川崎整形外科医院 岸川歯科 山口耳鼻科
---------	-------------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、住宅街の一角にあり、まさに、入居者にとっては住み慣れた場所での暮らしであり、地域との結び付きも濃厚である。管理者は、既成概念にとらわれないケアを目指している。職員は、明るい家庭的な雰囲気の中で、入居者を人生の先輩として敬い、尊厳を最大限に尊重している。それが、入居者の笑顔と穏やかな表情として現われている。2ユニットではあるが入居者も互いに自由に交流している。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>「鍵をかけないケアの実践」では、家族にも理解してもらい、それまでは午前中だけ施錠をしていなかった玄関を、日中は施錠をしないケアに改善し、実践している。また、職員も施錠による弊害についての認識を更に強めている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>サービスの質の確保と向上のために、全職員で自己評価に取り組んでいる。数日をかけて、各項目について、運営理念を基底におきながら話し合っている。そして、実践出来ている点、見直す面や更に向上を目指したい支援について、話し合っている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2か月毎に開催され、職員も出来るだけ多く出席している。参加者には「意見交換会」の趣旨で案内を出している。ホームでの暮らしぶり、行事等の報告の他に、職員から研修で得た認知症の話をしたり、各委員から忌憚のない意見を出してもらっている。花見などの行事に住民や家族に参加してもらい、つながりを深めているのも会議の成果の一つである。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>面会時には必ず声をかけ、意見や相談等を聴くようにしている。お茶も自由に飲んでもらい、些細なことでも話してもらえるような雰囲気作りを心掛けている。相談窓口を明示し、利用を呼びかけている。苦情、相談等は、間をおかずにその場で解決を図ったり、会議で取り上げている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>散歩や買い物での外出も多く、近所の方と顔なじみになり挨拶や言葉を交わしている方もいる。ホームを訪れて支援の手伝いをしている住民もある。夏祭りには多数の地域住民の参加がある。また、地域の運動会や高齢者福祉大会には、希望する入居者が参加している。職員も地域の奉仕活動に参加する等の活動を通じて地域との交流を図っている。</p>

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域社会とのつながりの中で安全に共同生活を送ること」を運営の基本にして「暮らしにぬくもりとほほえみを」を理念としている。	○	地域密着型サービスとしての役割を反映した理念の見直しが検討されており、その実現を期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の朝礼で理念を復唱している。そして、会議や話し合いの中で、理念が具体的にどう実践されているかを常に意識するようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの夏祭りやクリスマス会に地域住民にも参加を呼びかけ、入居者や家族との交流が行われている。地域の運動会や福祉大会には、希望する入居者が参加している。また、地域の清掃活動には、職員も地元の方と一緒に汗を流しながら、交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	日頃のケアを振り返り、サービスの質の確保と向上を図る良い機会として、全員で自己評価に取り組んでいる。自己評価や外部評価で見いだされた気づきや改善点は、具体案の検討や実践に向けての努力につなげられている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で、行事や支援の状況、外部評価の結果等が報告されている。参加者からの質問や率直な意見も多く出されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は、役場の福祉担当課や広域介護事業所に度々出かけ、関係づくりに努めている。情報交換や課題の解決を話し合い、サービスの向上に共に関わっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時には必ず家族に声をかけて日常の様子を報告している。毎月のホーム便りでは、各家族に利用者一人ひとりの様子をお知らせしている。金銭管理は毎月報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が相談等をしやすい様に、職員はいつも笑顔で家族と接する事を心掛けている。家族の率直な意見や相談等は、会議や毎日の打ち合わせで取り上げ、運営に活かしている。苦情相談の窓口やその利用についても、入居時や、その後の家族会等でも利用を呼び掛けている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は最小限にとどめ、入居者が不安を抱かない様になっている。やむを得ない退職があった場合は、新規職員との引き継ぎを十分にしたり、事前に入居者と顔なじみになる機会を設けている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護実践研修やリーダー研修等の外部研修に出来る限り参加し、研修内容をホームでの勉強会で伝達している。また、運営推進会議の場でもその内容を発表し、認知症の理解に役立てている。ホームでの研修会では、自作のテキストも使用し、職員の資質向上を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣市町村のグループホームと情報交換をしたり、交流する機会を持ったりしている。グループホーム協会の勉強会への参加は、サービス向上のための良い刺激にもなっている。他事業所とのネットワークの構築を検討中である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	具体的な状況把握のために、入居前に、自宅への訪問を行っている。また、見学や体験入居をしてもらっている。家族との相談を緊密にして、出来るだけ不安を和らげての入居につなげている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者との人間関係を深めながら支援している。一人ひとりの言動から、思いや喜び、悲しみ、不安等に共感しながら支援している。また、職員は入居者のこれまで歩んできた人生経験の中から教えられ、学ぶことも多い。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の言葉、表情、何気ない行動、諸情報から、意向の把握に努めている。意思疎通が困難な場合は、家族や本人をよく知る関係者からも情報を集めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者が自己実現が出来る事を目指して、本人や家族の要望を重視した計画が作成されている。計画作成にあたっては、担当者だけでなく、家族や関係者と検討を重ね、実現可能な具体的な介護計画になっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に援助期間に応じて、短期と長期の見直しを行っている。状況に沿った、優先順位に基づいた計画の見直しでもある。随時、現状の変化によつての見直しも行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族と相談し、病院での診察に同行したり、外泊や一時帰宅の支援等柔軟に対応している。医療連携体制加算により、健康管理や医療活用の充実が図られている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者や家族の希望で、これまでのかかりつけ医や母体法人の病院での受診を支援している。歯科、耳鼻科、整形外科などの他科の受診にも柔軟に対応している。医療協力機関とは何時でも相談や受診が出来る関係にある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化した場合の指針(看取り)」「看取り介護についての同意書」があり、入居時に本人や家族の意向、本人にとってどうあればいいのかを踏まえて、納得のいく話し合いをしている。これまで看取りの事例は無いが、重度化した場合は、主治医と家族との間で意向の確認が行われている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者のこれまでの人生や誇りに尊敬の念をもって支援している。一人ひとりに配慮した言葉かけや接遇に心がけ、失禁等にも羞恥心を十分に踏まえて対応している。個人情報等の秘密保持も守られており、「個人情報使用同意書」も準備されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れがあるが、あくまでも本人の意向や希望を大切にした暮らしへの支援である。入居者は居室や居間で思い思いに過ごしたり、散歩に出かけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も一緒に食卓を囲み、それとなく見守り、話しかけながら食事をしている。家庭的な和やかな食事風景である。入居者は、配膳をしたり、お茶を準備したり、食事後も出来る方は、自分のお盆を運んだり、食卓を拭くなど、入居者の個々の力量に応じた支援がなされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	勤務体制の都合で一応の決められた入浴日はあるものの、希望で毎日の入浴もできる。ゆっくりと仲良しの方と一緒に入浴している方もある。入浴を嫌がる方には、無理強いはしていないが、言葉かけを工夫したり、気分転換を図って、入浴してもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	各人の生活歴や趣味を把握し、介護計画が立てられている。民謡、読書、カラオケ、編み物、草花育て、料理、洗濯物たたみ、野菜栽培などいろいろな趣味や役割がある。花見やバスハイク、温泉、菖蒲見学などの外出機会も多い。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望により散歩や買い物に出かけている。近所の方と挨拶を交わしたり、顔なじみになっている方もいる。花見や季節毎の食事会には家族にも呼びかけ、家族との触れ合いの機会にもなっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は、鍵をかけない暮らしの大切さを認識している。安全面に配慮しつつも、自由な暮らしを支えるためにも、日中は施錠をしていない。職員の見守りや気配の察知で外出を支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回避難訓練を実施している。地域防災の一環として、住民や消防署、地元消防団の協力も得ている。	○	夜間等における職員だけの誘導の限界や、地震、台風 に備えた災害対策の更なる充実を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による高齢者向きの献立である。入居者の嗜好や行事食により献立の変更もある。食事量や栄養バランスは、毎食の食事量把握で確認している。水分摂取量は、体調によってきちんと確認しているが、普段は、居間や居室にお茶や好みの飲み物を置き、支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や台所には、大きな丸い天窓から柔らかい自然の明かりが差し込んでいる。花瓶には花桃や桜の花を挿したり、ひな飾り等により季節を感じさせる工夫がなされている。不快な音も無く、どの共有空間も清潔で、臭気も全く無い。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室が、その方らしい安らかに過ごせる環境になっている。家族の写真、丸椅子、鏡、化粧道具、好きな本、お気に入りの洋服なども見受けられ、馴染みの物の持ち込みに制限はない。職員がその方の好みに配慮した新聞切り抜きも見られる。		